

カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Sholpan Gaisina
出身地：カザフスタン・パブロダール
所属：カザフスタンパブロダール大学経営学部教授
日本滞在：2006年4月～2006年10月

滞在を通して理解できたこと

シヨルパン・ガイシナ

私は日本について多くの本を読んでいた
ので、そのイメージをいくらかつかんでいた。
今は現実にここで生活でき、大変興味
深い。東京は新旧対照的な要素をもつ都市
である。不思議な公園や庭園、二階建ての
小さな家々に、非現実的な超高層ビル群が
隣接している。日本には十分な土地がない
ため、建物が密集し、車一台分、オートバ
イ一台分の幅の通りさえある。そして、超
特急の新幹線が走り、高層ビルの谷間には
美しい花々が咲いている。

東京は人口過密地帯だが、大変治安が良
く好印象もてる。私は古い家々の地区が
好きだ。そこは閑静で、ゆったりとした生
活が感じられる。小さな寺院には写真を撮
る観光客はおらず、お参りに来る人も殆ど
いない。東京の橋も好きだ。こんなに多く
の橋を以前に見たことはない。今の私の趣
味は、地図を持って東京の街を歩くことだ。
地下鉄。最初は東京メトロの迷路のよう
な路線を、決して理解できないと思っ
てしまいかもしれない。だが徐々に理解できる
ようになる。電車は時間通り正確に運行さ
された位置で正確に開く。興味深いことに、
電車のなかで時には立ったまま寝込む人も
いる。特に驚いたことに、電車で眠って

る人でも、降車駅を乗り過ごすことはなく、
降りる時間になると目を覚ます。

私は勤務初日に、地図で出発駅である八
丁堀を確認し、問題なく千葉に着いた。だ
が、出発駅に表示された出口の番号が思
い出せず、夕方の退勤後にそのことが大問題
となった。その駅の出口が、複数あること
に気づいたのだ。駅の周囲は既に暗く、見
慣れた建物は見つからなかった。私の家の
行き方を地図上で示してほしいと人に尋ね
たが、彼らは私の言葉を理解できず、また
方角が分からない人もいた。幸い警察署の
警官が助けてくれ、出口の番号を思い出す
ことができた。

日本人は私に強い印象を与えた。日本人
はとても寛大、同情的で、攻撃的では全く
なく、特に老齢の方や他人に親切である。
人口は極度に過密、通りは人々や交通の往
来が激しいが、衝突はない。たとえ誰かに
押されても、人々は即座に謝る。

言葉。日本語を理解しなければ、日常生
活で問題を解決することは実際難しいため、
私は日本語を初歩から学ぶことにした。私
には日本語の先生がおり、週二度のレッス
ンを受けている。その先生はボランティア
で、とても親切で、活気のある女性だ。先
生のおかげで、話すことの恐怖心を克服で

き、日本語で何かを説明できるようになっ
た。今となっては私自身、日本で全くのよ
そ者とは感じていない。言葉はその国での
生活を、より快適に、興味深くさせる。

食べ物はとてもおいしい。高値安値にか
かわらず、どのレストランも美味な食事を
提供してくれる。しかも選択の幅も広い。
食べ物に対する日本人の考え方は、非常に
重要であると私には思われる。食べ物は美
味しく味わえ、さらに見た目も良くな
はならない。

少なくとも科学技術やインフラ面では、
恐らく日本は世界で最も進んだ国ではない
か。また、日本は高度な科学技術を得られ
たため、些細なことでも生活を快適にして
くれるものが数多く存在する。傘用乾燥機
などがそうである。

しかし、唯一理解不可能な点がある。物
価である。何よりも驚嘆させられる。だが、
買物でやりくりする必要があるとき、高
価ではないが、良質なものを多くの店で見
つけることができる。そうした店で買う価
値がある品物を探せばよい。

現在私は、休暇で娘が日本に来るのを待
っている。今度は娘と一緒に、興味深いこ
とを多々発見できるのではないかと。

(前海外客員研究員／訳 榎山貴史)